# IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

In re Application of:

Atsushi HAYAMI et al.

rial No. 09/987,034

Filed: November 13, 2001

For: MODULATION SYSTEM

**CUSTOMER NO. 021395** 

Art Unit: 2631

Examiner:

Atty Docket: 0102/018

# SUBMISSION OF PRIORITY DOCUMENTS

RECEIVED

Assistant Commissioner for Patents Washington, D.C. 20231

AUG 2 9 2002

**Technology** Center 2600

Sir:

Attached hereto please find certified copies of applicants' Japanese patent applications as follows:

Japanese Patent Application No. 2000-400671 filed December 28, 2000 Japanese Patent Application No. 2001-013313 filed January 22, 2001

Applicants request the benefit of said December 28, 2000 and January 22, 2001 filing dates for priority purposes pursuant to the provisions of 35 USC 119.

Respectfully submitted,

Louis Woo, RN 31,730

Law Offices of Louis Woo

1901 North Fort Myer Drive, Suite 501

Arlington, VA 22209

(703) 522-8872

Date:

2071~



# 日本国特許庁 JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日 Date of Application:

2000年12月28日

出 願 番 号 Application Number:

特願2000-400671

出 願 人 Applicant(s):

日本ビクター株式会社

RECEIVED

AUG 2 9 2002

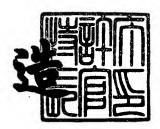
Technology Center 2600

# CERTIFIED COPY OF PRIORITY DOCUMENT

2001年11月 9日

特許庁長官 Commissioner, Japan Patent Office





# 特2000-400671

【書類名】

特許願

【整理番号】

412001496

【提出日】

平成12年12月28日

【あて先】

特許庁長官殿

【国際特許分類】

H03M 7/14

G11B 20/14 341

【発明者】

【住所又は居所】

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地 日本ビ

クター株式会社内

【氏名】

速水 淳

【特許出願人】

【識別番号】

000004329

【氏名又は名称】

日本ビクター株式会社

【代表者】

守隨 武雄

【電話番号】

045-450-2423

【手数料の表示】

【予納台帳番号】

003654

【納付金額】

21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】

明細書 1

【物件名】

図面 1

要

【物件名】

要約書 1

【プルーフの要否】

. N J 😝

# 特2000-400671

# 【書類名】 明細書

【発明の名称】 変調方法、変調装置、復調方法、復調装置、記録媒体、伝送装置および伝送方法

# 【特許請求の範囲】

# 【請求項1】

p ビットの入力データ語を複数の符号化テーブルを用いて q ビット (ただし、q>p) の符号語を得る変調を行うに際し、

前記複数の符号化テーブルは、それぞれの入力データ語に対応して、符号語と、この符号語に直接結合しても所定のランレングス制限規則を満たすような次の符号語を得るために次の入力データ語を変調するのに使用する符号化テーブルを示す状態情報とを格納しており、

前記複数の符号化テーブルのうちの特定の符号化テーブルと他の特定の符号化 テーブルは、所定の入力データ語に対しては、その所定の入力データ語に対応し て格納されているそれぞれの符号語をNRZI変換した信号が逆極性となるよう に符号語が割り当てられており、

前記所定の入力データ語を変調する際に、過去に選択されたすべての出力符号語と前記特定の符号化テーブルを用いて変調した符号語から得られるDSVの絶対値と、過去に選択されたすべての出力符号語と前記他の特定の符号化テーブルを用いて変調した符号語から得られるDSVの絶対値のうち、絶対値が小さい方の符号語を選択することにより、DSV制御のもとで前記所定のランレングス制限規則を満たす符号語を出力する変調方法において、

前記pビットは8ビット、前記qビットは15ビットであり、前記ランレングス制限規則は、同期信号を除いて、符号語をNRZI変換した信号の最小ランレングスが3T(ただし、Tは前記符号語のチャネルビット周期)、最大ランレングスが14T以下であり、前記qビットの入力データ語とは異なる補助情報の入力手段を具備し、前記qビットのデータ語に前記補助情報を重畳して変調することを特徴とする変調方法。

# 【請求項2】

前記最大ランレングスを11Tから14Tの何れかに選択することを特徴とす

る請求項1に記載の変調方法。

# 【請求項3】

前記補助情報は最大ランレングスを変えて変調を行うことにより入力データ語 に重畳することを特徴とする請求項2に記載の変調方法。

# 【請求項4】

前記補助情報はあらかじめ定められた所定のビット数からなるブロック単位で 情報単位を構成することを特徴とする請求項3に記載の変調方法。

# 【請求項5】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法により前記入力データ語を変調することを特徴とする変調装置。

# 【請求項6】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法によって符号化がなされた符号語列を 入力データに復調するための復調方法であって、

符号化された符号列を符号化したビット単位の符号語列に戻すシリアルパラレル変換し、

前記符号語が符号化された符号化テーブル候補を検出し、

前記検出した符号化テーブル候補の出力を用いて前記符号語が複数ある符号化 テーブルのどの状態で符号化されているのかを検出し、

前記符号語と検出した符号化テーブルの出力とから入力データを復調する復号 テーブルとによって符号語を入力データ語に復調すると共に、前記入力データ語 に重畳された補助情報を復調することを特徴とする復調方法。

## 【請求項7】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法によって符号化がなされた符号語列を 入力データに復調するための復調装置であって、

符号化された符号列を符号化したビット単位の符号語列に戻すシリアルパラレル変換手段と、

前記符号語が符号化された符号化テーブル候補を検出する第1の検出手段と、 前記検出した符号化テーブル候補の出力を用いて前記符号語が複数ある符号化 テーブルのどの状態で符号化されているのかを第2の検出手段と、 前記符号語と検出した符号化テーブルの出力とから入力データを復調する復号 テーブルとによって符号語を入力データ語に復調する復調手段と、

前記入力データ語に重畳された補助情報を復調する補助情報復調手段と備えた ことを特徴とする復調装置。

# 【請求項8】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法によって生成された変調信号が少なくとも一部に記録されていることを特徴とする記録媒体。

# 【請求項9】

請求項5に記載の変調装置によって生成された変調信号が少なくとも一部に記録されていることを特徴とする記録媒体。

# 【請求項10】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送装置。

# 【請求項11】

請求項5に記載の変調装置によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送装置。

#### 【請求項12】

請求項1乃至請求項4に記載の変調方法によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送方法。

#### 【請求項13】

請求項5に記載の変調装置によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送方法。

# 【発明の詳細な説明】

# [0001]

#### 【発明の属する技術分野】

本発明は、変調方法、変調装置、復調方法、復調装置、記録媒体、伝送装置、 および伝送方法に係り、特にディジタル信号を光ディスク、磁気ディスクなどの 記録媒体に記録再生し、ディジタル信号を伝送するのに好適な変調方法、変調装 置、復調方法、復調装置、記録媒体、伝送装置、および伝送方法に関するもので ある。

[0002]

# 【従来の技術】

一般に、光ディスクに記録されるピット長は、記録再生の光伝送特性や、ピット生成に関わる物理的な制約から最小ランレングス(最小ピットまたはランド長)の制限、クロック再生のし易さから最大ランレングス(最大ピットまたはランド長)の制限、更にはサーボ帯域などの保護のために、被記録ディジタル信号の低域成分の抑圧特性を持つよう記録するディジタル信号を変調する必要がある。

# [0003]

この制限を満たす従来の変調方法のうち、最小ランレングスを3T(T=チャネルビットの周期)、最小ランレングスを11Tとしたものに、CD(コンパク・ディスク)に用いられているEFM(8-14変調)方式や、DVD(ディジタル・バーサタイル・ディスク)に用いられているEFM+(8-16変調)方式が知られている。

# [0004]

上記のEFM方式は、周知のように、8ビットデータを14チャネルビットの符号語に変換する共に、その変換の際にチャネルビットの"1"と"1"の間には必ず"0"が2個以上、10個以下連続するというランレングス制限規則RLL(2,10)を満足するようにし、更に14ビットの符号語の間には必ず3ビットのマージンビットを、上記の符号語の接続部においてもRLL(2,10)を満足させると共に変調された信号の直流成分や低周波数成分を減少させるために設ける変調方式である。

## [0005]

また、後者のEFM+方式は、8ビットデータを直接16ビット符号語にランレングス制限規則RLL(2,10)を満足するように変換すると共に、前後の2つの符号語を結合したときにも上記のRLL(2,10)を満足するように結合する変調方式である。

#### [0006]

更に、より高密度記録を行うためにより高いコード化レートを持ち、最小ラン

レングス3T、最大ランレングス11Tのランレングス制限規則を満たす変調方式が、特開2000-286709号公報に開示されており、この変調方法は、入力ディジタル信号を符号語に符号化するために、入力ディジタル信号(入力データ語)に対して複数の符号化テーブルを用いるもので、この複数の符号化テーブルを、入力ディジタル信号に対応する符号語と、次の入力ディジタル信号を符号化するための符号化テーブルを選択するための状態情報を有すると共に、所定の入力ディジタル信号に対する特定の符号化テーブルにおける符号語と他の特定の符号化テーブルにおける符号語をそれぞれNRZI変調した信号が逆極性(「1」の数の偶奇性が異なる)となるようにしたものである。これにより、例えば、8ビットのデータをDSV(Digital Sum Value)制御を行いながら15ビットの符号語に変換できる。

[0007]

# 【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、上記の16ビット符号語のEFM+方式は、マージンビットを含めると17ビット符号語であるEFM方式に比べてコード化レートが約6%向上するが、より高密度記録を行うためには更にコード化レートの向上が必要であるという問題点を有していた。

#### [0008]

また、被記録信号の低域成分の更なる抑圧、より性能の高いDSV制御という点に鑑みなされたもので、8-15変調方式で符号間のマージンビットを用いない変調方式において、入力データ語の出現頻度の情報を基に符号化テーブルを最適化することにより、より性能の高いDSV制御を行い、もって変調された信号の低域成分をより一層抑圧し得る変調方法、変調装置及び記録媒体を提供することを目的とした符号語の最小ランレングスを3T、最大ランレングスを11Tに制限が可能な符号化テーブルに関しては、特開2000-286709号公報に開示されている。

#### [0009]

ところで、情報媒体の不正コピー等の対処手段としてDVD(ディジタル・バーサタイル・ディスク)にはディスク内周にBCA(バースト・カッティング・

エリア)の記録がなされているが、これだけでは不正コピー防止に関する十分で はなく、より確実に不正コピーを防止する必要があるという問題点を有していた

# [0010]

本発明は、コード化レートの向上による高密度記録を可能とし、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として改ざんが不可能な信号を記録することができ、よって不正コピー等の防止を実現することを目的とする。

# [0011]

# 【課題を解決するための手段】

本発明は上述した問題点を解決するために p ビットの入力データ語を複数の 符号化テーブルを用いてgビット(ただし、g>p)の符号語を得る変調を行う に際し、前記複数の符号化テーブルは、それぞれの入力データ語に対応して、符 号語と、この符号語に直接結合しても所定のランレングス制限規則を満たすよう な次の符号語を得るために次の入力データ語を変調するのに使用する符号化テー ブルを示す状態情報とを格納しており、前記複数の符号化テーブルのうちの特定 の符号化テーブルと他の特定の符号化テーブルは、所定の入力データ語に対して は、その所定の入力データ語に対応して格納されているそれぞれの符号語をNR ZI変換した信号が逆極性となるように符号語が割り当てられており、前記所定 の入力データ語を変調する際に、過去に選択されたすべての出力符号語と前記特 定の符号化テーブルを用いて変調した符号語から得られるDSVの絶対値と、過 去に選択されたすべての出力符号語と前記他の特定の符号化テーブルを用いて変 調した符号語から得られるDSVの絶対値のうち、絶対値が小さい方の符号語を 選択することにより、DSV制御のもとで前記所定のランレングス制限規則を満 たす符号語を出力する変調方法において、前記pビットは8ビット、前記qビッ トは15ビットであり、前記ランレングス制限規則は、同期信号を除いて、符号 語をNRZI変換した信号の最小ランレングスが3T(ただし、Tは前記符号語 のチャネルビット周期)、最大ランレングスが14T以下であり、前記 q ビット の入力データ語とは異なる補助情報の入力手段を具備し、前記qビットのデータ

語に前記補助情報を重畳して変調することを特徴とする変調方法を提供する。

[0012]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法により前記 入力データ語を変調することを特徴とする変調装置を提供する。

[0013]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法によって符号化がなされた符号語列を入力データに復調するための復調方法であって、符号化された符号列を符号化したビット単位の符号語列に戻すシリアルパラレル変換し、前記符号語が符号化された符号化テーブル候補を検出し、前記検出した符号化テーブル候補の出力を用いて前記符号語が複数ある符号化テーブルのどの状態で符号化されているのかを検出し、前記符号語と検出した符号化テーブルの出力とから入力データを復調する復号テーブルとによって符号語を入力データ語に復調すると共に、前記入力データ語に重畳された補助情報を復調することを特徴とする復調方法を提供する。

# [00.14]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法によって符号化がなされた符号語列を入力データに復調するための復調装置であって、符号化された符号列を符号化したビット単位の符号語列に戻すシリアルパラレル変換手段と、前記符号語が符号化された符号化テーブル候補を検出する第1の検出手段と、前記検出した符号化テーブル候補の出力を用いて前記符号語が複数ある符号化テーブルのどの状態で符号化されているのかを第2の検出手段と、前記符号語と検出した符号化テーブルの出力とから入力データを復調する復号テーブルとによって符号語を入力データ語に復調する復調手段と、前記入力データ語に重量された補助情報を復調する補助情報復調手段と備えたことを特徴とする復調装置を提供する。

# [0015]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法あるいは変調装置によって生成された変調信号が少なくとも一部に記録されていることを特徴とする記録媒体を提供する。

[0016]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法あるいは変調装置によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送装置を提供する。

#### [0017]

また、本発明は上述した問題点を解決するために上述した変調方法あるいは変調装置によって生成された変調信号を伝送することを特徴とする伝送方法を提供する。

## [0018]

# 【発明の実施の形態】

次に、本発明の実施の形態について図面と共に説明する。図1は本発明になる 変調方法及び変調装置の実施の形態が適用されたディスク記録装置のブロック図 を示す。

# [0019]

図1において、ディスク記録装置1は、フォーマット部12、8-15変調部 13、NRZI変換駆動回路14及び記録駆動回路15から構成されており、入 力された映像や音声などの情報に関するディジタル信号を光ディスク等の記録媒 体2に記録する装置である。

#### [0020]

まず、映像や音声などの情報に関するディジタル信号は、一緒に記録される制御信号等と共にフォーマット部12に入力され、ここで誤り訂正符号や同期信号などが付加された後、記録媒体2の記録フォーマットに合わせた制御フォーマットに変換され、フォーマット信号として8-15変調部13に出力される。

# [0021]

一方、フォーマット部12には補助情報信号がディジタル情報信号とともに入力されフォーマット部12において最大ラン設定信号として8-15変調部13に出力される。最大ラン設定信号は、例えば、図16のように記録セクタ毎に1または0のバイナリ信号で出力される。例として最大ラン設定信号が1のときは最大ラン長(Tmax)が12、最大ラン設定信号が0の時は最大ラン長(Tm

ax)が11のように後述する如く8-15変調部で変調がなされる。

# [0022]

本実施例では12Tあるいは11Tを最大のラン長としているがこの他の組み合わせ、例えば,最大ラン設定が1の時は12T以上を選ぶ等の組み合わせも本発明では有効である。また、記録セクタは例えばディジタル情報信号の2048バイトが選ばれるが、これも補助情報が記録可能な範囲で任意に設定が可能である。

#### [0023]

8-15変調部13から出力された信号(記録信号)は、記録駆動回路15に供給され、これにより光ディスク等の記録媒体2に記録される。なお、本実施例では記録媒体2を例にとって説明をしているが、記録信号は伝送符号化手段21にて伝送に適した符号化処理がなされ、伝送媒体22を介し、伝送されることも可能である。

# [0024]

図2は図1に示した8-15変調部13の一例のブロック図を示す。なお、図2では符号を一時記憶するためのパスメモリを2つ備えた場合を示しているが、本発明はより多くのパスメモリを有する場合にも適用することができる。なお、図2の符号語選択肢有無検出回路100にはフォーマット部12より最大ラン設定定信号が入力され符号語選択肢有無検出回路100で最大ラン長を最大ラン設定信号で選択をする。

#### [0025]

ここで、図2による本発明になる変調装置の実施例の説明に際し、図3~図7に8-15変調が可能な6状態のテーブルを用いて符号化テーブル120の構成について詳細に説明する。まず、最大ランが11Tに制限された場合について動作の詳細な説明を行う。

# [0026]

符号化テーブル120は図3に示す如く、入力データ語に対応して、符号語( すなわち、変換後の出力符号語)と、この符号語に直接結合しても所定のランレングス制限規則(例えば、最小ランレングス3T、最大ランレングス11T)を 満たすような次の符号語を得るために次の入力データ語を変調するのに使用する符号化テーブル120を示す状態情報とを格納している。また、複数の符号化テーブル120のうちの特定の符号化テーブル120と他の特定の符号化テーブル120は、所定の入力データ語に対しては、その所定の入力データ語に対応して格納されているそれぞれの符号語をNRZI変換した信号が逆極性となるように符号語が割り当てられている。

### [0027]

図3~図7では、8ビットの入力語を15ビットの符号語に変換するための状態"S=0"~"S=5"の6つの符号化テーブルの例を示す。図3~図7の各符号化テーブルにおいて、入力語(図3~図7の左にDataと記した列)は10進で示され、変換後の出力符号語は2進数(15ビット)で示され、また、各出力符号語の右端の数字は、符号語の間を直接結合しても、所定のランレングス制限規則を満たすような次の符号語を得るために次の入力データ語を変調するのに使用する符号化テーブルを示す状態情報を示す。

# [0028]

例えば、図3に示す状態"S=0"の符号化テーブルを参照すると、入力語「0」では状態情報S+1は"4"であり、入力語「1」では状態情報S+1が"5"であり、入力語が「2」では状態情報S+1が"0"であることが分かる。従って、状態"S=0"の符号化テーブルを使用して入力語「0」の変調(符号化)を行ったときには、次の入力語に対しては状態"S=4"の符号化テーブルを用いて変調を行うことになる。

## [0029]

また、状態"S=0"と状態"S=3"の各テーブルに着目すると、入力語「0」~「38」に対応する出力符号語をNRZI変換した信号は、極性が逆(符号語に含まれる「1」の数の偶奇性が異なる)となるように配置されている。これにより、次の符号語をNRZI変換するときの初期値を異なるように設定できる。また、逆極性にすると、DSVの場合、増える方向と減る方向とにすることができる。

[0030]

符号化規則については、各符号化テーブル共に、次に遷移する状態情報S+1として状態"S=0"が選択される場合は、前の出力符号語LSB側のゼロラン長が「0」となるように(すなわち、出力符号語が「1」で終るように)なっている。また、状態"S=3"の符号化テーブルにおいては、入力語「0」~「38」に対応する各出力符号語は、MSB側のゼロラン長が「2」となるように配置されている。従って、状態"S=3"の符号化テーブルの入力語「0」~「38」に対応する各出力符号語を、それぞれ状態"S=0"の符号化テーブルにおける入力語「0」~「38」に対応する各出力符号語と交換しても、NRZI変換後のランレングスが3T~11Tに限定されるランレングス制限規則を維持できる。状態"S=2"と状態"S=4"の各符号化テーブルの入力語「0」~「11」及び「26」~「47」についても同様に、交換を行ってもランレングス制限規則が維持できるように配置されている。

# [0031]

次に、図2の動作について説明する。まず、同期信号などの入力データ語SC tに対して初期テーブル(符号化テーブルの選択肢の初期値)を選択しておく。 次に、8ビットの入力データ語SCtが入力されると、符号語選択肢有無検出回 路100は今回の入力データ語SCtと、符号化テーブルアドレス演算部110 から供給される先行出力符号語(ここでは選択された初期値)によって決定され た状態情報とに基づいて、今回の入力データ語SCtに対応する出力符号語が一 意に決まるか、または選択肢があるかを検出し、検出結果を符号化テーブルアド レス演算部110と絶対値比較部140に出力する。

# [0032]

ここで、図3~図7に示した符号化テーブルの状態"S=0"と状態"S=3"の各テーブルに着目すると、前述したように、状態"S=3"のテーブルの出力符号語のうち、入力データ語(入力語)「0」~「38」に対応する出力符号語は、状態"S=0"のテーブルの出力符号語と交換しても符号化規則を維持することができ、また復号可能である。また、状態"S=2"と状態"S=4"の各テーブルに着目すると、状態"S=4"のテーブルの出力符号語のうち、入力語「0」~「11」及び「26」~「47」に対応する出力符号語は、状態"S

= 2"のテーブルの出力符号語と交換しても符号化規則を維持することができ、 また復号可能である。

# [0033]

更に、図3~図7に示した符号化テーブルでは、状態"S=0"と状態"S=2"のテーブルの出力符号語は、それぞれ状態"S=3"と状態"S=4"のテーブルの入力語に対応する出力符号語においてはNRZI変換後の極性が逆になるように構成されているため、状態"S=0"のテーブルの入力語「0」~「38」と、状態"S=2"のテーブルの入力語「0」~「11」及び「26」~「47」が発生した場合には、複数の出力符号語をとり得ることになり、パス「1」とパス「2」としてDSVの値を利用して最適な出力符号語を選択することにより、DSV制御を行うことができる。

# [0034]

そこで、符号語選択肢有無検出回路 100 は、符号化テーブルアドレス演算部 110 から供給される状態情報 S+1 が状態" S=0 "であって、入力データ語 S C t が「0」~「38」の場合は、「選択肢有り」の検出結果を出力する。このとき、符号化テーブルアドレス演算部 110 は、符号化テーブル 120 中の状態" S=0 "のテーブルの入力データ語 S C t に対応する出力符号語 O C t を読み出すと共に、状態" t S t 3 "のテーブルの入力データ語 t 5 C t 6 に対応する出力符号語 t 7 と t 6 で t 6 で t 7 に対応する出力符号語 t 7 と t 7 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 8 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 7 に対応する出力符号語 t 8 に t 7 に対応する出力符号語 t 8 に t 9 に t 9 に t 8 に t 9 に

#### [0035]

また、符号語選択肢有無検出回路 100 は、符号化テーブルアドレス演算部 10 から供給される状態情報 S+1 が状態" S=2 "であって、入力データ語 S C t が I C t が I C t が I C t で I C t が I C t が I C t が I C t で I C t で I C t で I C t で I C t で I C t で I C t で I C t で I C t に I C t

# [0036]

更に、符号語選択肢有無検出回路100は、符号化テーブルアドレス演算部1

10から供給される状態情報 S + 1が状態"S = 3"であって、前の出力符号語のLSB側のゼロラン長が2~6であり、次の出力符号語が状態"S = 0"の符号化テーブルにおける出力符号語と入れ替えても符号化規則を崩さない範囲にあるときにも、すなわち、最大ラン長が11Tを超えることなく符号化が可能なときにも、「選択肢有り」の検出結果を出力する。このとき、符号化テーブルアドレス演算部は、符号化テーブル中の状態"S = 3"のテーブルの入力データ語SCtに対応する出力符号語OC2tを読み出す。

# [0037]

このように、符号語選択肢有無検出回路100の検出結果が「選択肢有り」の場合には、符号化テーブルアドレス演算部110により算出されるアドレスは2つとなるので、この場合には、符号化テーブル120は時分割処理などにより2種類の符号語を出力する。そして、符号化テーブル120から出力される2種類の符号語は、一方がパス「1」の出力符号語としてパスメモリ131に入力され、他方がパス「2」の出力符号語としてパスメモリ132に入力される。

#### [0038]

符号語選択肢有無検出回路100は、上記以外の条件では「選択肢無し」(一意に決まる)の検出結果を符号化テーブルアドレス演算部110に供給する。符号化テーブルアドレス演算部110は、符号語選択肢有無検出回路100からの検出結果に基づいて、符号化テーブル120のアドレスを算出する。

#### [0039]

すなわち、符号語選択肢有無検出回路100の検出結果が「選択肢なし(一意に決まる)」の場合には、符号化テーブルアドレス演算部110により算出されるアドレスは1つであるので、このアドレスに対応する出力符号語が符号化テーブルアドレスから読み出されて、パスメモリ131、パスメモリ132に同じ出力符号語が入力される。

#### [0040]

ここで、パスメモリ131には、過去にパスメモリ131より出力符号語を出力した時点以降の出力符号語(OC1t-1、OC1t-2、・・・、OC1Td

svc)と直前に入力されたパス「1」の出力符号語OC1 t が蓄積されており、パスメモリ132には、過去にパスメモリ132より出力符号語を出力した時点以降の出力符号語(OC2t-1、OC2t-2、・・・、OC2Tdsvc)と直前に入力されたパス「2」の出力符号語OC2tが蓄積されている。

# [0041]

また、DSV演算メモリ130には、過去に選択されたすべての出力符号語と 直前に入力されたパス「1」の出力符号語から得られるDSV値(DSV1t-1)が記憶されており、DSV演算メモリ133には、過去に選択されたすべて の出力符号語と直前に入力されたパス「2」の出力符号語から得られるDSV値 (DSV2t-1)が記憶されている。

# [0042]

一方、絶対値比較部140は、DSV演算メモリ130からの今までのDSVの総和の絶対値 | DSV1t-1 | と、DSV演算メモリ133からの今までのDSVの総和の絶対値 | DSV2t-1 | と大小比較しており、その比較結果をメモリ制御/符号出力部150へ出力する。

#### [0043]

メモリ制御/符号出力部150は、絶対値比較部140から入力される比較結果が、 | DSV1t-1 | < | DSV2t-1 | であるときには、パスメモリ131に記憶されている過去の出力符号語(OC1Tdsvc、・・・、OC1t-2、OC1t-1)を選択された出力符号語として出力すると共に、パスメモリ133にも出力して書き換え、DSV演算メモリ132の記憶内容をDSVの絶対値が小さい方のDSV演算メモリ130に記憶されているDSV1t-1に書き換える。

## [0044]

これに対し、絶対値比較部140から入力される比較結果が | DSV1t-1 | ≥ | DSV2t-1 | であるときには、パスメモリ133に記憶されている過去の出力符号語(OC2Tdsvc、・・・、OC2t-2、OC2t-1)を選択された出力符号語として出力すると共に、パスメモリ131にも出力して書き換え、DSV演算メモリ130の記憶内容をDSVの絶対値が小さい方のDSV演

算メモリ132に記憶されているDSV2t-1に書き換える。

# [0045]

その後、パス「1」の出力符号語OC1tをパスメモリ131に記憶すると共に、出力符号語OC1tを含めたDSVをDSV演算メモリ130で演算して記憶する。また、パス「2」の出力符号語OC2tをパスメモリ133に記憶すると共に、出力符号語OC2tを含めたDSVをDSV演算メモリ132で演算して記憶する。なお、符号語選択肢有無検出回路100の検出結果が「選択肢なし」の場合には、パス「1」およびパス「2」の出力符号語は同じとなる。

#### [0046]

以上の動作を入力データ語が無くなるまで繰り返し、最後にパスメモリ131 またはパスメモリ133に蓄積されているすべての出力符号語をメモリ制御/符 号出力部150を介して出力することにより、NRZI変換後に3Tから11T のランレングス制限規則を満足するDSV制御された出力符号語を出力すること ができる。

# [0047]

図4~図12は本発明による符号化テーブルの他の構成例であり、上述した図3~図7で示した符号化テーブルの記憶領域を少なくしても支障をきたさないよう符号化テーブルを構成したものである。図3~図7に示した符号化テーブルの状態 "S=2" について、状態 "S=0" の符号語と重複している符号語および 状態 "S=4" と重複した符号語を削減し、さらに状態 "S=3" について、状態 "S=0" の符号語と重複している符号語を削減し、さらに状態 "S=3" について、状態 "S=0" の符号語と重複している符号語を削除した符号化テーブルを図8~図13に示す。

## [0048]

図3〜図7によれば、状態 "S=2" の符号化テーブルは入力語「0」〜「156」について、状態 "S=0" と同じ符号語配置がなされ、入力語「157」〜「255」について、状態 "S=4" と同じ符号語配置がなされている。また、状態S=3の入力語「166」〜「255」について、状態 "S=0" と同じ符号語配置がなされている。

# [0049]

図8~図13に示した符号化テーブルを用いて符号化を行う場合以下の規則に 則って符号化を行う。

[0050]

状態 "S=2"の符号語が選ばれたときは

入力語「0」  $\sim$  「156」の時は、符号化テーブルは状態 "S=0" を選択。

[0051]

入力後「157」~「255」の時は、符号化テーブルは状態 "S=4" を 選択。

[0052]

状態"3"の符号語が選ばれたときは

入力語「166」~「255」の時は、符号化テーブルは状態 "S=0"を 選択。

ただし、入力語が「255」で、先行符号語の下位ビットのゼロラン長が6より 大の時は、符号化テーブルは状態 "S=4" を選択この処理は図2中の符号化テ ーブルアドレス演算部110によって行うことができる。

[0053]

なお、上記の説明では、図8~図13に示した符号化テーブルの符号語配置に したがった符号化規則を説明をしたが、例えば、ラン長制限を長くしたりすることなどの理由によって符号化テーブルの符号語配置を変えた場合には本規則も配置の変更に伴って変えることができる

以上述べたDSV制御の処理について、フローチャートを図17に示す。

[0054]

さて、以上述べたように図3~図7あるいは図8~図13に示した符号語化テーブルによって3Tから11Tにラン長が制限され、DC成分が抑圧可能な符号語系列を生成可能なことを示した。次に、図1または図2に示した最大ラン設定信号による制御に関して図17を参照して説明をする。

[0055]

パスメモリ、DSV演算メモリ、符号化テーブル状態等の初期設定を行い(ス

テップ401)、次に符号化テーブル状態をもとに同期語を読み込み、パスメモリ、DSV演算メモリの更新を行う(ステップ402)。次に1入力データ語を読み込み(ステップ403)ステップ404へ移る。ステップ404で条件1の入力データ語かどうかを判断し、条件1の入力データ語である場合(ステップ404でYの場合)は、ステップ408へ移り、条件1の入力データ語でない場合(ステップ404でNの場合)は、ステップ405へ移る。条件1は((状態=0)&&(入力データ語<39))である。

# [0056]

ステップ405で条件2の入力データ語かどうかを判断し、条件1の入力データ語である場合(ステップ405でYの場合)は、ステップ408へ移り、条件2の入力データ語でない場合(ステップ405でNの場合)は、ステップ406へ移る。条件2は((状態=2)&&((入力データ語<12 | | ((入力データ語>25)&&(入力データ語<48))))である。

# [0057]

ステップ406で条件3の入力データ語かどうかを判断し、条件1の入力データ語である場合(ステップ406でYの場合)は、ステップ408へ移り、条件3の入力データ語でない場合(ステップ406でNの場合)は、ステップ407へ移る。条件3は最大ラン設定信号=0の場合は、(先行ゼロラン0、1>2)&& (状態=3)&& (入力データ語<155))&& k=10を維持している、最大ラン設定信号=1の場合は、(先行ゼロラン0、1>2)&& (状態=3)&& (入力データ語<155))&& 最大ランが12T である。

# [0058]

図17に示した条件3ではk=10すなわち最大ラン長が11TとなるときDSVの小さくなる符号化テーブルを選択する処理を行っている。これは最大ラン設定信号が、例えば、0の時に有効な処理である。最大ラン設定信号が、例えば、1の時には条件3を満たす場合は同じ処理を行い、状態0の符号語を選んだ場合、k=11すなわち最大ラン長が12Tとなるときには無条件に状態0を次にとる状態に設定をする。

#### [0059]

これによって、最大ラン設定信号が0の時はk=10を満足するRLL(2, 10)制限を満たす変調方式によって変調がなされ、最大ラン設定信号が1の時はk=11を満足するRLL(2, 11)制限を満たす変調方式によって変調がなされるよう変調方式の切り替えを行う事が可能である。すなわち、最大ラン設定信号を0か1かに補助情報に従って選択することによって変調方式の異なるエリアを生成することが可能であり、主情報に変調方式の切り替えによる補助情報を重畳することが可能である。

[0.060]

ステップ407で例外条件かどうかを判断し、例外条件である場合は例外処理を実行しステップ409へ移り、、例外条件でない場合は、そのままステップ409へ移る。、例外処理は、1. (先行ゼロラン>6)&& (状態=3)&& (入力データ語=255))の場合 → 状態=2 または 2. (先行ゼロラン=7or8)&& (状態=4)&& (入力データ語=255))の場合 → 状態=1となる。

[0061]

ステップ409では状態2を選択可能状態に更新し、ステップ410に移る。ステップ410では、状態1を基にOC1tをパスメモリ(候補0)に入力し、状態2を基にOC2tをパスメモリ(候補1)に入力し、DSVO,1を更新し、ステップ411へ移る。ステップ411では、次に来る入力データ語が同期語かどうかを判別し、同期語である場合(ステップ411でYの場合)はステップ403に戻り、同期語でない場合(ステップ411でNの場合)はステップ412に移る。ステップ412ではDSVの小さなパスメモリを選択し、この選択結果をもとにして既に入力されているパスメモリのデータをDSVの小さい方のデータにそろえて保持し直す。つまり、DSVO,1をDSVの小さい方にそろえステップ413に移る。ステップ413では、次に来る入力データ語がない、入力データ語が終了したかどうかを判別し、終了した場合(ステップ413でYの場合)は処理を終了し、入力データ語が終了していない場合は(ステップ413でNの場合)はステップ402に戻る。

[0062]

次に本発明になる復調装置の実施の態様について説明をする。

図13は本発明の復調装置の構成例を模式的にあらわすブロック図である。図13のように、図示せぬ記録媒体等から再生された再生信号は図示せぬ再生信号処理手段によって2値化されて復調装置への入力符号語ビット列として復調装置(NRZI復調器30)に入力される。入力符号語ビット列は一方がシリアルパラレル変換器32に入力され、他方が同期検出回路31に入力される。また補助情報復号器38にも入力されるが、この動作については後述する。

[0063]

同期検出回路31では符号語ビット列に挿入されている同期語を検出し、符号語列間隔のワードクロックを生成し、シリアルパラレル変換器32に入力し、ワードクロックをタイミング信号として符号語列に変換する。これを入力符号Ckと記す。Ckは一方はワードレジスタ33に入力され、1符号語長の遅延がなされる。また一方は状態演算器34に入力される。

[0064]

ワードレジスタ33の出力は符号語ケース検出回路35に入力される一方、符号語ケース検出回路35から出力されるケースとCkが入力される状態演算器34から出力されるSkとともににアドレス演算を行うアドレス生成器36に入力され復号テーブル37のアドレスを出力し、復号テーブル37では前記アドレスを元に出力データ語を出力する。

[0065]

以下さらに詳しく復調器について説明を加える。

[0066]

図8~図12に示した符号化テーブルによって前述した如く符号化がなされた符号語列Ck-1, Ck, Ck+1, ・・・・ は表1に示すようなLSB側のゼロランによってグループわけ(以下ケースと呼ぶ)ができ、ケースによって次に取りうる状態が決まっている。

[0067]

【表1】

ケース	LSB側のゼロラン長	次にとりうる状態
0	0	0, 1
1	1	1, 2, 3
2	2~6	1, 3, 4, 5
3	7, 8	3, 4, 5
4	9,10	4,5

[0068]

すなわち、Ck-1のケースを検出し、Ckの符号化がなされた状態が分かれば、出力データは一意に決まる。

[0069]

たとえば、復調装置に符号語列として

Ck-1: 00000000100000

Ck: 010010001000100

Ck+1: 10000100001000

Ck+2: 00001000000001

と入力されたとする。このとき、Ck-1のケースは表1から2であり、Ckは1,3,4,5の状態のうち何れかで符号化されていることが分かり、Ckは状態4で符号化がなされているので0と復号される。Ckもケースは2であり、Ck+1は状態5で符号化がなされているので1と復号される。同様に、Ck+1は2と復号される。

[0070]

なお、図4 a 乃至 e では状態 2 が存在していないが、例えば、次に示す演算(式1)によって後続符号語とケースとによって後続符号語が符号化された状態を演算出力可能であり、状態 "2"についても演算によって出力される。

式1

if ((Ck=8208) | | (Ck=8224) | | (Ck=8225) | | (Ck=8256)) flag = 1;

if ((Ck=8712) | | (Ck=8720) | | (Ck=8736) | | (Ck=8777)) flag = 2;

if(Case==0)[ /\* Ck-1のLSB側のゼロラン = 0 の場合 \*/

```
if((Ck \le 1024) | | ((Ck \ge 4168) & (Ck! = 4224))) Sk = 0;
if((1025 \le Ck)\&\&(Ck \le 4164) \mid (Ck == 4224)) Sk = 1;]
else if(Case==1)[/* Ck-1のLSB側のゼロラン = 1 の場合 */
if ((1025 \le Ck) \&\&(Ck \le 4164) \mid (Ck == 4224)) Sk = 1;
if ((Ck \le 585) \mid | (Ck \ge 8712) & (flag !=2) \mid | (Ck == 8704) \mid | (flag == 8704) \mid | (fl
1)) Sk = 2;
if ((Ck == 1024) | | ((4168 <= Ck)&&(Ck <= 8708)&&(Ck != 4224)&&(Ck != 8708)
4))&&(flag != 1) || (flag == 2)) Sk = 3;
else if(Case==2)[/* Ck-1のLSB側のゼロラン = 2~6 の場合 */
if ((1025 \le Ck)\&\&(Ck \le 4164) \mid | (Ck == 4224)) \le k = 1;
if ((Ck <= 1024) || ((4168 <= Ck)&&(Ck <= 8708)&&(Ck != 4224)&&(Ck != 87
04))||
    (flag == 2)) Sk = 3;
if ((Ck == 8704) \mid | ((8712 \le Ck) \&\& (Ck \le 16900) \&\& (Ck \mid = 16896) \&\& (flag \mid e 168
=2))||
(flag == 1)) Sk = 4;
if ((Ck == 16896) \mid | (Ck >= 16904)) Sk = 5;]
else if(Case==3)[/* Ck-1のLSB側のゼロラン = 7 か 8 の場合 */
if ((Ck \le 1024) \mid | (Ck == 9216) \mid | ((4168 \le Ck) & (Ck \le 8708) & (Ck \mid =
4224)&&
(Ck != 8704)) | | (flag == 2)) Sk = 3;
if ((Ck == 16896) \mid (Ck >= 16904)) Sk = 5;
if ((Ck == 8704) \mid | ((8712 \le Ck) \&\& (Ck \le 16900) \&\& (Ck != 9216) \&\&
(Ck != 16896) \& (flag !=2)) | | (flag == 1) | | (Ck == 4224)) Sk = 4;
else if(Case==4)[/* Ck-1のLSB側のゼロラン = 9 か 10 の場合 */
if ((Ck == 8704) \mid | ((8712 \le Ck) \& (Ck \le 16900) \& (Ck != 16896) \& (flag !)
=2))||(flag == 1)) Sk = 4;
if ((Ck == 16896) \mid | (Ck >= 16904)) Sk = 5;] return Sk;
         以上説明した内容について、図14に復調のフローチャートを示す。
```

図14に従って、復調の動作の説明を加える。

# [0071]

最初の処理として、復調装置は符号語を読み込みCkとする(ステップ41)。 次ワードレジスタ33ではCkを遅延しCk-1を生成し、同時に符号語を読み込みCk とする(ステップ42)。符号語ケース検出装置35ではCk-1のケースを表1に従って検出し(ステップ43)、Caseとして状態演算器34に出力をし、Ck-1を符 号化をした状態Skを式1に従って演算出力をする(ステップ44)。

# [0072]

アドレス生成36ではCk-1とSkとから復号テーブル37のテーブルアドレスを 生成し、復号テーブル37から出力データ語をデータ復号する(ステップ45) 。この操作をデータの終了まで繰り返す(ステップ46)、つまりデータ終了で ない場合(ステップ46でNの場合)は、ステップ42に戻り、データ終了の場 合(ステップ46でYの場合)は処理を終了する。。

# [0073]

図15が図13の復調器に好適な復号テーブルの構成例の一部を示す図である。入力のCk-1と後続符号語の状態Skとによって、出力符号語Dk-1が出力される。図13のアドレス生成部では図15に示す復号テーブルを構成するROMテーブルのアドレスを生成することによって、Dk-1を出力可能である。

#### [0074]

次に補助情報の復号について説明をする。図13に示した補助情報復号器の構成例として図18のような構成が考えられる。ここで、セクタ情報は記録ブロックの区切りを示す信号であり、例えば同期検出回路で特定パタンの検出や、復号テーブルに後続の図示せぬ信号処理回路によって可能である。後続の回路を用いる場合検出に必要となる時間遅延は時間遅延を補助情報復号器に付加する事で補償が可能である。

#### [0075]

さて、入力ビット列はビット単位のレジスタ50に加えられ、例えば12Tが 最大ランとした場合は11ビット長0が連続することを加算器51で検出し、1 2Tの出現数をカウンタ52によって個数をカウントし、比較器53にて基準値 54と比較をして、基準値を超えた場合1を出力する。基準値54は誤りビットが発生した場合に対処するもので所定の値をあらかじめ設定することで、誤りの除去が可能である。

[0076]

このように、図18によれば記録ブロック単位で最大ランが11Tと変調がな されているか、12Tとなされているかを検出することが可能である。

[0077]

なお、補助情報の復号はこれに限られたものではなく、式1を基にした演算に よって、12Tが出現したことを検出することによっても可能であることは明ら かである.

[0078]

# 【発明の効果】

本発明は、コード化レートを向上させて高密度記録を可能とし、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として 改ざんが不可能な信号を記録するように入力データ語を変調することができ、よって不正コピー等の防止を実現することができるという利点を有する。

[0079]

また、本発明はコード化レートを向上させて高密度記録し、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として改ざんが不可能な信号を記録するように入力データ語を変調した信号を良好に復調することができ、特にDSV制御が可能な符号語の最小ラン長が3T、最大ラン長が11Tまたは12Tまたは13Tまたは14Tに制限可能な符号化テーブルにおいて、符号語の記憶領域を元の性能を損なうことなく低減することが可能であり、さらに補助情報を主情報に重畳することが可能で、補助情報の挿入の如何にかかわらず同一の復調器での復調が可能であるという利点を有する。

[0080]

本発明は、コード化レートを向上させて高密度記録を可能とし、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として 改ざんが不可能な信号を記録した記録媒体を作成することができ、よって不正コ ピー等の防止を実現することができるという利点を有する。

[0081]

本発明は、コード化レートを向上させて高密度記録を可能とし、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として 改ざんが不可能な信号を記録した形態の信号を伝送することができ、よって不正 コピー等の防止を実現することができるという利点を有する。

# 【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の変調装置の実施例を示すブロック図である。

【図2】

本発明の変調装置の詳細な構成を示すブロック図である。

【図3】

従来の符号化テーブルの構成である。

【図4】

従来の符号化テーブルの構成である。

【図5】

従来の符号化テーブルの構成である。

【図6】

従来の符号化テーブルの構成である。

【図7】

従来の符号化テーブルの構成である。

【図8】

本発明による符号化テーブルの構成例である。

【図9】

本発明による符号化テーブルの構成例である。

【図10】

本発明による符号化テーブルの構成例である。

【図11】

本発明による符号化テーブルの構成例である。

## 【図12】

本発明による符号化テーブルの構成例である。

# 【図13】

本発明の復調装置の実施例である。

## 【図14】

本発明の復調方法の実施例を示すフローチャートである。

### 【図15】

本発明の復調装置に用いる復号テーブルの構成例である。

## 【図16】

補助情報の挿入方法を説明するための図である。

## 【図17】

DSVの制御法を説明するための図である。

# 【図18】

本発明の補助情報の復号器の動作例を説明するための図である。

# 【符号の説明】

- 1…変調装置、
- 2…記録媒体、
- 12…フォーマット部、
- 13…8-15変調部、
- 1 4 ··· N R Z I 変換回路、
- 15…記録駆動回路、
- 21…伝送符号部、
- 22…伝送媒体、
- 100…符号語選択肢有無検出回路、
- 110…符号化テーブルアドレス演算部同期語生成部、
- 120…符号化テーブル、
- 130、132…DSV演算メモリ、
- 131、133…パスメモリ、
- 140…絶対値比較部、

# 特2000-400671

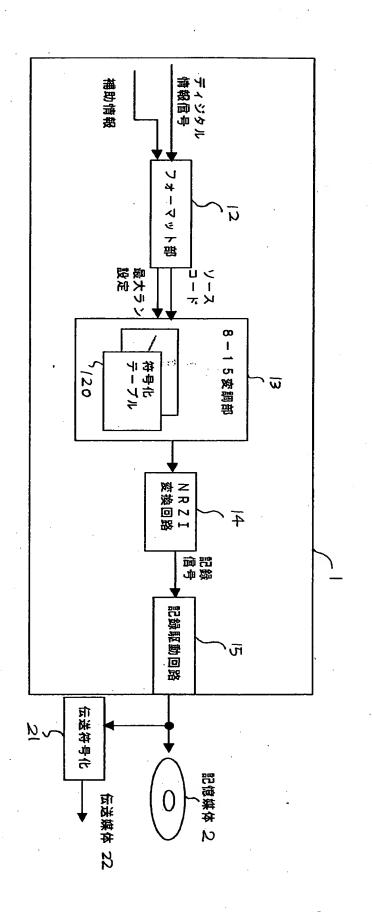
- 150…メモリ制御符号化出力部、
- 30…復調器 (NRZI復調)、
- 31…同期検出回路、
- 32…シリアルパラレル変換器、
- 33…ワードレジスタ、
- 3 4 …状態演算器、
- 35…符号語ケース検出装置、
- 36…アドレス生成部、
- 37…復号テーブル、
- 38…補助情報復号器、
- 50…レジスタ、
- 5 1 …加算部、
- 52…カウンタ、
- 53…比較部、
- 5 4 …基準値、

# 特2000-400671

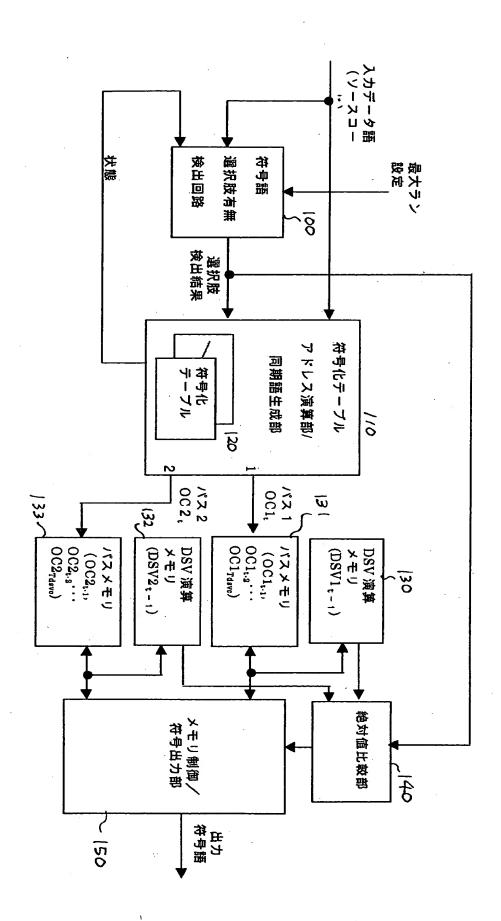
【書類名】

図面

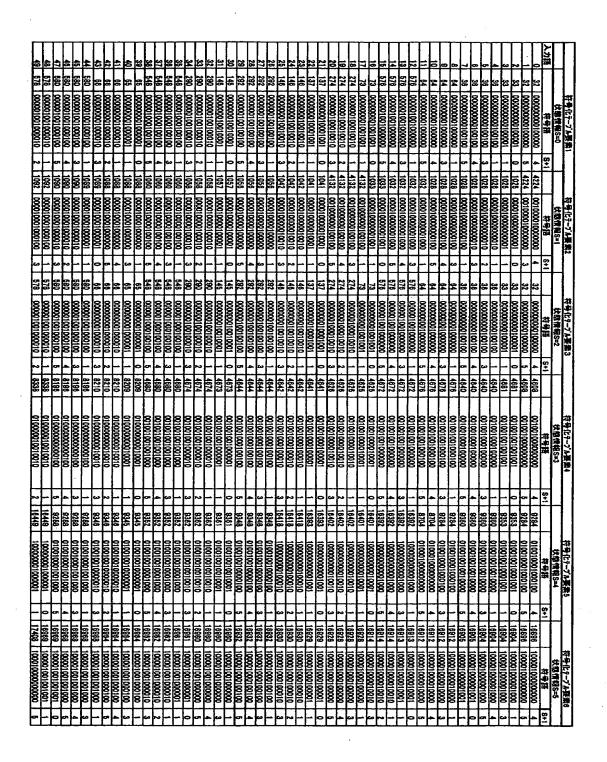
【図1】



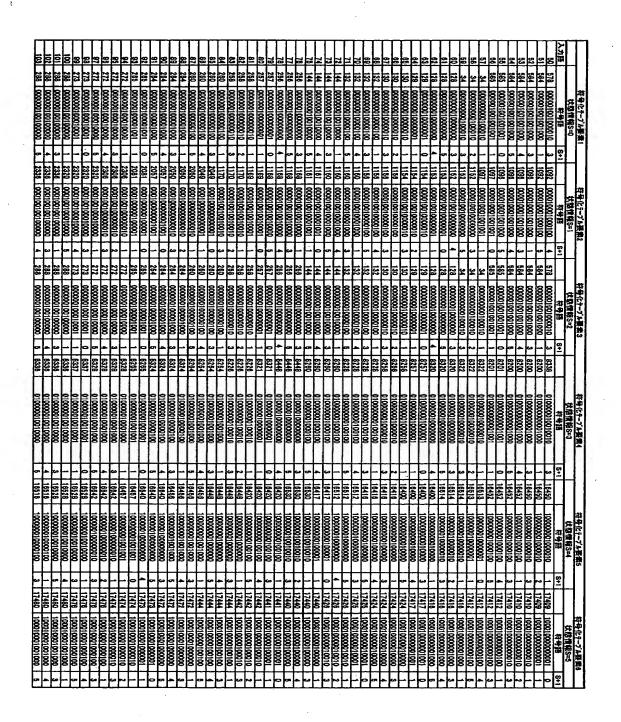
【図2】



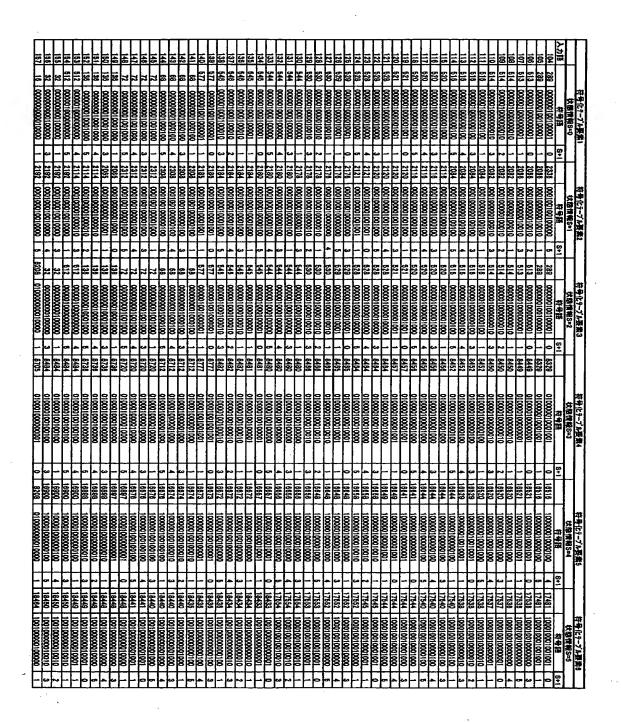
【図3】



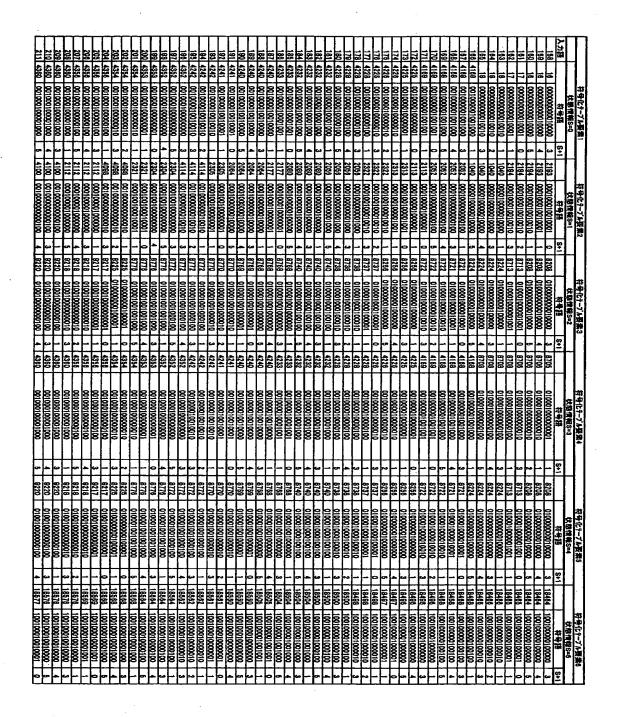
【図4】



【図5】



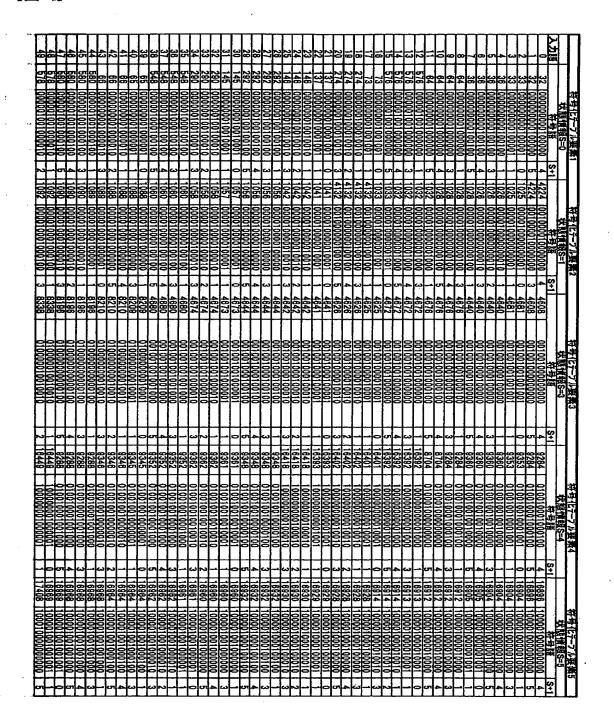
【図6】



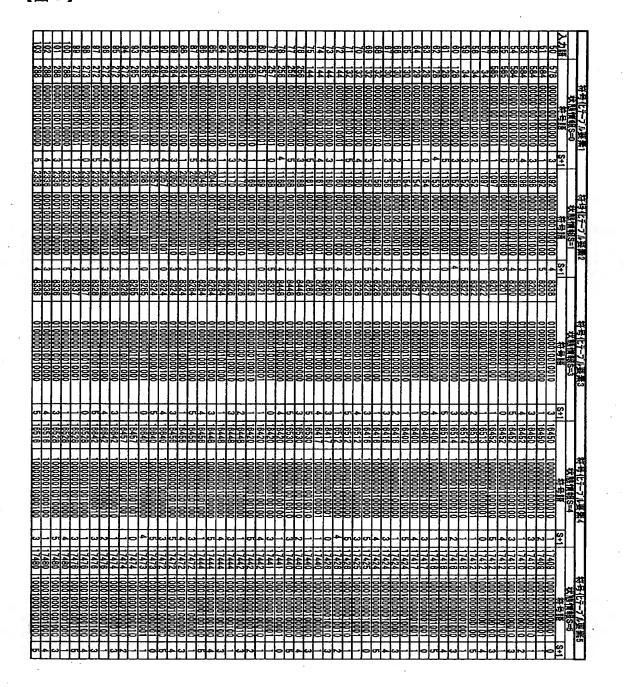
【図7】

II pre zero run r er o
. K
$^{+}$
0100100100000
3   8344   010010010000000
1 9289 010010001001001
1 9289 010010001001001
Н
Н
Η
3   9281   010010001000001
-
┪
┪
1
┪
Н
Н
1 9249 010010000100001
Н
2 9248 010010000100000
0100100001000
1
1
5 9234 01001000010010
t
1 8233 010010000010001
3 8232 010010000010000
Н
Н
Н
Н
Н
Ι.
1 8224 010010000001000
1 8224 010010000001000
0 8220 010010000000100
8+1 谷野田
<b>兌換達都S=4</b>

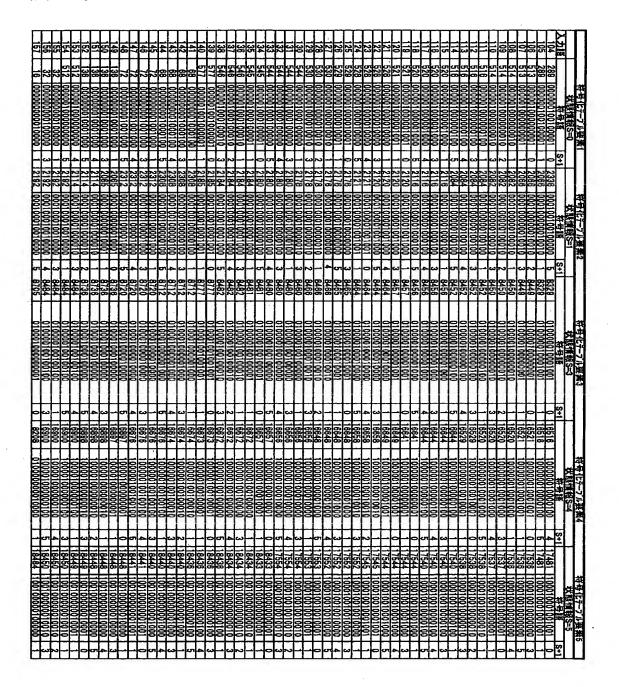
【図8】



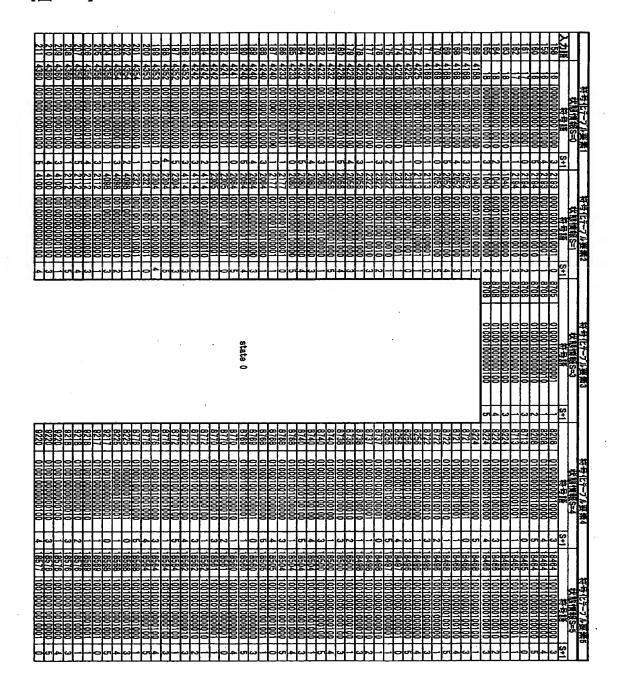
## 【図9】



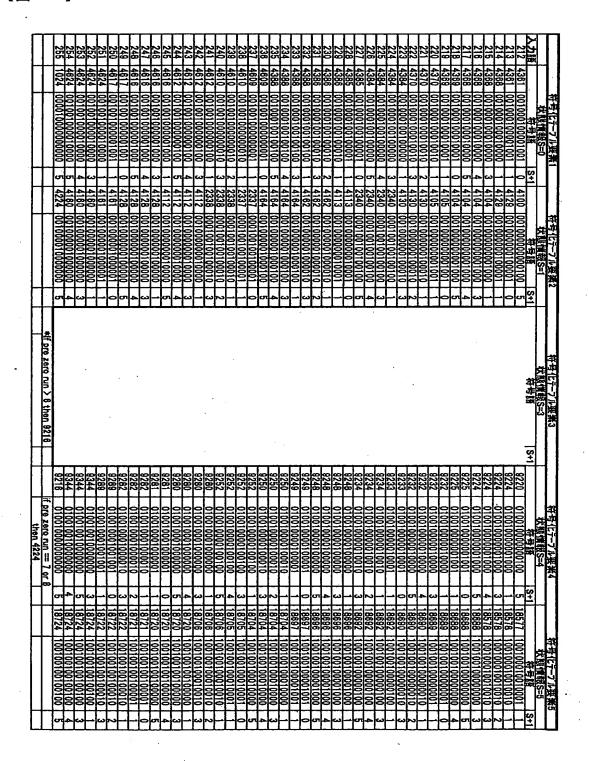
【図10】



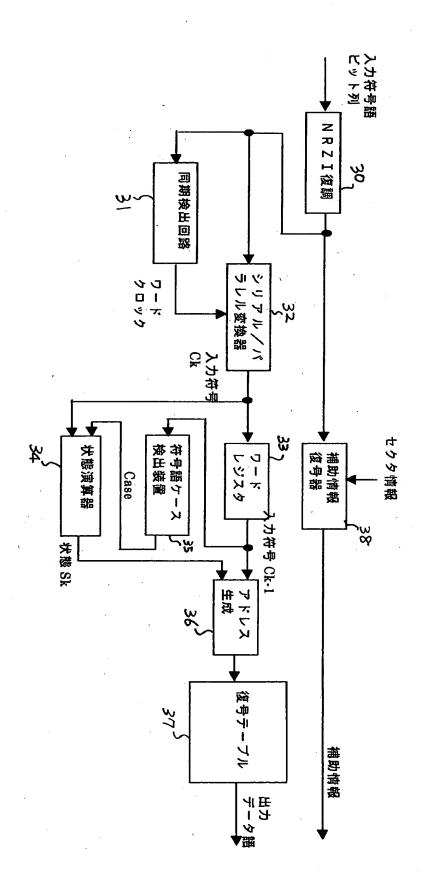
【図11】



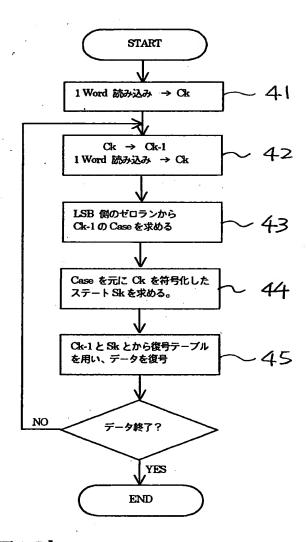
【図12】



【図13】



## 【図14】



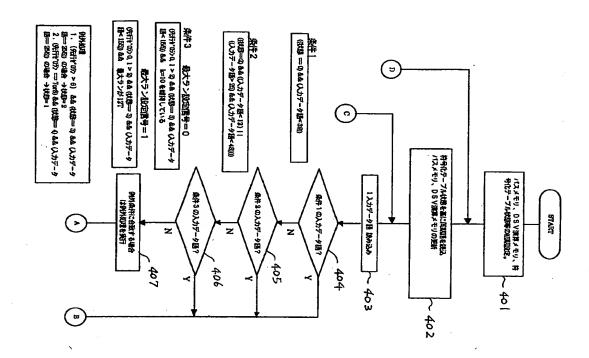
【図15】

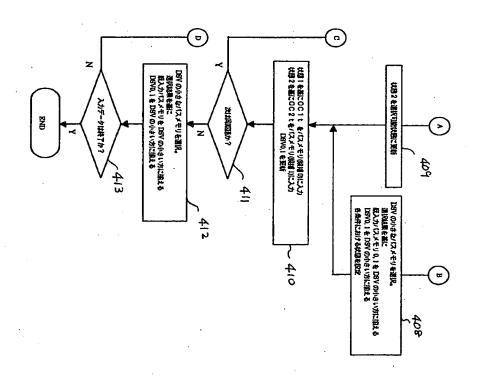
Sk=0		Sk=1		Sk=2		Sk≓3		Sk=4		Sk=5	
Ck−1	Dk-1	Ck-1	Dk-1	Ck-1	Dk-1	Ck-1	Dk-1	Ck-1		Ck-1	Dk-1
17	161	16	157	18	164	16	158		159	16	160
33	2	17	162	34	58	18	165		0		1
65	39	18	163	66	42	32	156	36	6		7
73	16	32	155	130	66	34	59		10	64	11
129	63	33	3	146	24	36	5		143	68	144
137	21	34	57	258	82	64	9		147	72	148
145	30	36	4	274	19	66	43		62	128	61
257	79	64	8	290	33	8	142	132	70	132	71
265	92	65	40	514	109	72	146		151	136	152
273	98	66	41	530	128	128	60		74	144	75
289	104	68	141	546	137	130	67		78	256	77
513	106	72	145	578	49	132	69		86	260	87
521	119	73	17	1026	5	136	150				91
529	125	129	64	1042	24	144	73		96	272	97
545	134	130	65	1058	33	146	25	288	102	288	103
577	139	132	68	1090	46	256	76		28	292	29
585	55	136	149	1154	64	258	83			512	154
1025	2	137	22	1170	83	260	85		113	516	114
1033	15	144	72	2050	88	264	89		117	520	118
1041	21	145	31	2066	106	272	95		123	528	124
1057	30	146	23	2082	109	274	20	544	132	544	133
1089	43	257	80	2114	152	288	101	548	37	548 576	38
1097	56	258	81	2178	129	290	34			576	15
1153	61	260	84	2194	161	292	27	580	46	580	47
1161	74	264	88	2306	95	514	110		53		54
1169	80	265	93	2322	176	516	112		9		255
2049	85	272	94	2338	240	520	116		13		10
2057	90	273	99	4098	203	528	122	1040	165	1032	14
2065	149	274	18	4114	195	530	129	1056	28	1040	166
2081	92	288	100	4130	222	544	131	1060	37	1056	29 38
2113	171	289	105	4162	231	546	138		41	1060	38
2121	123	290	32	4226	175	548	36		50	1088	42
2177	186	292	26	4242	194	576	13		54	1092	51
2185	139	513	107	4354	202	578	50		60	1096	.55 59
2193	158	514	108	4370	221	580	45		68 72	1152	69
2305	192	516	111	4386	230	584	52			1156	69
2313	173	520	115	4610	239	1026 1028	6 8		78 169	1160 1168	73 79
2321	200 237	521 528	120 121	4626 4642	19	1032	12		180		170
4105	219	529	126	4674	24 33	1040	164	2064	190	2056	181
4113	228	530	127	8210	42	1042	25	2080	184	2064	191
4129	213	544	130	8226	82	1056	27	2084	113	2080	185
4129	250	545 545	135	8258	66	1058	34		207	2084	114
4169	170	546	136	8322	58	1060	36	2116	117	2112	208
4225	172	548		8338	49	1088	40	2120	121	2116	118
4233	185	576	35 12	8450	109	1090	40	2176	127	2120	122
4233	191	577	140	8466	128	1092	49				
4353	199	578	48	8482	137	1092	53		137	2180	134
4333	212	580	44	8706	160	1152	58		156	2184	138
4369	218	584	51	8722	170	1154	65		199	2192	157
4385	227	585	56	8738	179	1156	67	2308	143	2304	198
4609	236	1025	30	8770	192	1160	71	2312	147	2308	144
4617	249	1025	4	9218	207	1168	77	2320	99	2312	148
4625	16	1028	7	9234	226	1170	84		103	2320	100
4641	21	1032	11	9250	235	2050	89		226	2336	104
4673	30	1033	16	9282	248	2052	168		211	2340	227
4681	2	1040	163	9346	42	2056	179	4104		4100	212
8201	- 55	1040	22	9362	33	2064	189	4112	244	4104	218
8209	39	1041	23	16402	19	2066	107	4112	248	4112	245
8225	202	1056		16418		2080	183		19	4112	249
			<u>26</u>		24				254		
8257 8265	63	1057	31	16450	51	2082	110			4132	20
	92	1058	32	16514	60	2084	112	<del></del>	235	4164	236
8321	79	1060	35	16530	76	2112	206	4168	168	4168 4224	169 255
8329	104	1088	39	16642	96	2114	153		0		
	104 98 106	1088 1089 1090	39 44 45	16642 16658 16674	96 123 142	2114 2116 2120	116 120	4228	179 183	4228 4232	180 184

【図16】

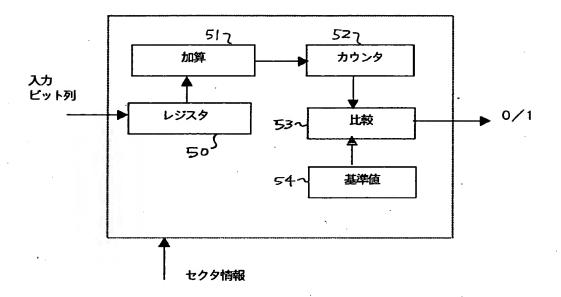
記録セクタ	0	1	2	3	4	• • • •
最大ラン設定	1	0	0	1	1	
Tmax	1 2	11	11	12	1 2	

## 【図17】





【図18】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 本発明は、コード化レートの向上による高密度記録を可能とし、また、記録信号に直接データとして出力することが不可能な信号とすることにより結果として改ざんが不可能な信号を記録することができ、よって不正コピー等の防止を実現する。

【解決手段】 RLL(2, k) 制限の8-15変調を用いて、kの値を外から 制限可能とし、補助情報を主情報へ重畳することにより、変調によるウォータマ ークとして記録することができる。

## 出願人履歴情報

識別番号

[000004329]

1. 変更年月日

1990年 8月 8日

[変更理由]

新規登録

住 所

神奈川県横浜市神奈川区守屋町3丁目12番地

氏 名

日本ビクター株式会社